第6章　関連事業

関連事業の概況

NHKの関連団体は，それぞれの事業分野でNHKの業務を補完・支援し，NHKグループの一員として，NHKと共に豊かで多様な放送文化の創造に努めることを基本的な役割としている。

NHKの業務の効率的推進により経費の節減を図ると同時に，インターネットの利用拡大やモバイル端末の急速な普及，放送と通信の連携の進展，スーパーハイビジョン（4K･8K）の推進といった放送を取り巻くメディア環境の変化や社会・経済状況の変化等が進んでいく中で，NHKのソフト資産・ノウハウの利活用や社会還元を進め，副次収入等での財政的寄与により視聴者の負担を抑制していくことを目標として運営されている。

今後も，効率性と公共放送の質の確保を一層進めて，NHKグループ全体の総合力を高めていく。

子会社での多額不正事案の発生を受けて，2016年度は，グループ経営改革を進め，関連団体に対する指導監督機能の強化やコンプライアンスの徹底等を図った。

1．関連事業の体制

16年度末現在，NHKの関連団体は，子会社13社，関連会社4社，関連公益法人等9団体の計26団体，総従業員数は6,389人である。（⇒p.719）

2．関連団体の決算概要

16年度の関連団体決算は，健保・共済会を除く24団体の単純合計額で，売上高（事業収入）2,916億円（対前年度5億円増），当期純利益（正味財産増減額）90億円（対前年度20億円増）であり，増収増益となった。

関連団体によるNHK副次収入への寄与額は，対前年度2億円増の58億円になった。

今期決算に伴う配当は，対前年度11億円増の88億円で，うちNHKの受取額は，対前年度4億円増の58億円となった。

3．団体に対する出資など

16年度は，新たな関連団体への出資や増資はなかった。関連団体以外への出捐（しゅうえん）・出資については，NHKと民放の放送番組を収集・保存し，一般に無料で公開する公益財団法人「放送番組センター」に5,659万円の出捐を行ったほか，海外において通信・放送・郵便事業を行う事業者等に対し，資金の供給，専門家の派遣その他の支援を行うことを目的とする株式会社「海外通信・放送・郵便事業支援機構」に2億円の出資を行った。

Ⅰ．関連団体への番組制作委託

NHKでは，コンパクトな番組制作体制の下で質の高い放送番組を安定的に確保するため，16年度も関連団体への番組制作委託を進めてきた。

また，番組の一層の多様化を図るため，関連団体を通じて，番組制作会社にも企画提案を求め，一部の番組制作を委託した。

関連団体への委託では，NHKエンタープライズに，『NHKスペシャル』などの大型企画番組，ドラマ番組（『土曜ドラマ』など），芸能番組（『ザ少年倶楽部』など），自然番組（『ダーウィンが来た！生きもの新伝説』など），アニメ番組（『アニメ　おじゃる丸』など）の制作，購入番組の日本語版制作などの委託を行った。

NHKエデュケーショナルには，『きょうの料理』『おかあさんといっしょ』『日曜美術館』『ニュースで英会話』など，生涯学習や教育・教養に関する番組の制作を委託した。

NHKグローバルメディアサービスには，大相撲，プロ野球をはじめとするスポーツ番組や，『国際報道2016／2017』『東京マーケット情報』などのニュース・情報番組を委託した。

NHKサービスセンターには，『NHKプレマップ』などの広報番組や各種番組スポットなどの制作を委託した。

NHKプラネットには，『うまいッ！』『きらり！えん旅』などの番組を委託した。

日本国際放送には，『J-MELO』『TOKYO FASHION EXPRESS』などの国際放送番組を委託した。

Ⅱ．放送番組等の二次展開

1．映像・音声商品等の発行

NHKエンタープライズからは，「NHKビデオ・DVD」の名称で，『連続テレビ小説』「とと姉ちゃん」「べっぴんさん」，『大河ドラマ』「真田丸」，『土曜ドラマ』「トットてれび」，『NHKスペシャル』「完全解剖　ティラノサウルス」「ママたちが非常事態！？」，『おかあさんといっしょ　メモリアルベスト　しあわせをありがとう』などの映像

商品を発行した。

また，NHKサービスセンターからは，「NHK CD」の名称で『基礎英語』などの月刊語学教材や『甦る！NHKラジオ歌謡』『講談傑作選』などの音声商品を発行した。

２．放送番組および素材の提供

（１）企業・団体への番組の提供

一般企業・団体，自治体の展示，イベント用などにNHKエンタープライズ等を通じて放送番組を提供した。

（２）BS・CS放送事業者への番組提供

NHKエンタープライズを通じて，CS放送事業者等に『大河ドラマ』「風林火山」「平清盛」「天地人」，『BS日本のうた』『総合診療医　ドクターG』などを提供した。

（３）CATVへの番組提供

NHKエンタープライズを通じて，『連続テレビ小説』「おしん」「ゲゲゲの女房」「カーネーション」，『大河ドラマ』「龍馬伝」，ドラマ『真田太平記』，などを提供した。

（４）機内上映用の提供

航空機の旅客サービス用として，NHKグローバルメディアサービスを通じて日本航空，全日本空輸などへ『NHKニュース』を，NHKエンタープライズを通じて日本航空へ『歴史秘話ヒストリア』『NHKスペシャル』などを，全日本空輸へ『LIFE！～人生に捧げるコント～』『サラリーマンNEO』などを提供した。

（５）番組素材の提供

民間放送局および一般企業・団体への番組素材の提供をNHKエンタープライズを通じて，また，放送大学学園への番組素材の提供をNHKエデュケーショナルを通じて行った。

（６）キャラクターの使用許諾

NHKエンタープライズが，『いないいないばあっ！』などの幼児番組や『びじゅチューン！』などのキャラクターの使用許諾を行った。

３．デジタル事業

NHKグローバルメディアサービスが行うスマートフォン等のモバイル端末向けのサービスに対し，NHKのニュースや番組の楽曲などの提供を行った。

４．番組・素材の海外提供

関連団体を通じて，番組とニュース素材を海外の放送機関などへ提供した。NHKエンタープライズからアニメやドラマ，自然番組，教育番組などを提供，日本国際放送からは「NHKワールドプレミアム」を配信した。

開発途上国の放送機関などには，NHKインターナショナルと連携し，「番組国際ライブラリー」の保存番組を公的資金によって提供した。

番組・ニュース素材については，NHKインターナショナルを通じて，海外の放送機関や一般団体へ提供した。また，デジタルクリップを制作し，オンラインによる提供も行った。

５．放送番組関連の出版

米大統領選の結果を受け，『NHKスペシャル』「“トランプ大統領”の衝撃」を書籍化。また，高齢化社会を迎える中国など東アジア地域で「老人漂流社会」シリーズを翻訳出版した。Eテレ『ヨーコさんの“言葉”』はシリーズⅡ・Ⅲを書籍化。『昔話法廷』は年度内の増刷が５刷に達した。

関連団体

Ⅰ．子会社

１．NHKエンタープライズ

NHK番組をはじめとする数多くの映像コンテンツの制作，イベントの企画制作，ライセンスの許諾，商品の販売，デジタルコンテンツ制作などを手がけ，NHKグループの一員として日本のコンテンツ産業の発展に尽力している。

16年度，映像コンテンツの分野では，ドラマやドキュメンタリー，アニメ，エンターテインメント番組など，NHKのテレビやラジオ番組およそ１万2,700本の番組を制作した。特にSHV試験放送の開始に合わせ，４K･８Kによる撮影・編集に取り組み，８KHDR「千体仏の小宇宙～京都三十三間堂～」「リオのカーニバル2016」，４K「８Kが切り開くアートの未来～ヨーロッパ・スーパーハイビジョン最前線～」を制作したほか，定時番組『ダーウィンが来た！生きもの新伝説』『さわやか自然百景』などで４K一体化制作を実施した。

総合テレビでは『あの日　わたしは～証言記録東日本大震災～』，『土曜時代劇』「忠臣蔵の恋～四十八人目の忠臣～」，『正月時代劇』「陽炎の辻完結編」，『土曜ドラマ』「夏目漱石の妻」，『○○

○○の演芸図鑑』『今夜も生でさだまさし』『となりのシムラ』『アニメ　３月のライオン』のほか，『スタジオパークからこんにちは』『ニュースシブ５時』などの生放送番組を制作した。番組フォーマットの開発にも積極的に取り組み，落語にアテブリ芝居をかぶせる演出が話題を呼んだ『超入門！落語　THE　MOVIE』は定時番組化した。３年かけて放送する４Ｋドラマ『放送90年大河ファンタジー　精霊の守り人』第２シリーズは，世界最大の番組見本市MIPにおいて，アジアのテレビ番組で初めてプレミア上映された。

Eテレでは『ムジカ・ピッコリーノ』『日本の話芸』『Rの法則』『Eダンスアカデミー　シーズン４』，アニメの『おじゃる丸』『忍たま乱太郎』『わしも』『境界のRINNE』などを制作した。

BS1では『地球タクシー』『GREAT　RACE～グレートレース～』『球辞苑～プロ野球が100倍楽しくなるキーワードたち～』『ぼくらはマンガで強くなった』『BS世界のドキュメンタリー』のほか，20年に向けたスポーツ番組として『挑戦者たち』『スポーツ・クライミング2016』などを制作した。

BSプレミアムでは新規大型枠『スーパープレミアム』で「ザ･ビートルズフェス」「AKB48FES2016」などを制作，『世界ふれあい街歩き』『英雄たちの選択』『ワイルドライフ』『新･BS日本のうた』『ザ少年倶楽部』『クラシック倶楽部』『関口知宏のヨーロッパ鉄道の旅』のほか，人体の４KCG映像を活用した『美と若さの新常識～カラダのヒミツ』，『覆面リサーチ　ボス潜入』など，幅広いジャンルの番組を制作した。

「第32回ATP賞テレビグランプリ」では，『京都人の密かな愉しみ』がグランプリを受賞，『NHKスペシャル』「いのち 瀬戸内寂聴 密着500日」，『富士ファミリー』の制作番組が各部門で最優秀賞を受賞した。

イベントの企画制作では，「ロボットコンテスト」の各大会「NHK学生ロボコン」「ABUロボコン」「高専ロボコン」を実施した。15回目の記念イベントとなった「東京JAZZ」は東京国際フォーラムでの最後の開催となり，17年からは渋谷に舞台を移す。ミュージカル「忍たま乱太郎」は若い女性が会場の席を埋め，初めての地方公演を兵庫と静岡で開催した。

展示事業では，長野県上田市で「真田丸」の大河ドラマ館を制作，入場者数103万5,000人を記録した。「ワープステーション江戸」の運営では，『大河ドラマ』「おんな城主　直虎」の収録に使用された。

NHKで放送された番組を中心に，CS／CATV放送局，VOD事業者，航空会社（機内上映用）などに提供した。

デジタルコンテンツ制作では，ウェブサイト，データ放送，動画配信，４K･８K制作などのコンテンツ制作に取り組んだ。通信分野では，「NHKオンライン・トップページ」の10年ぶりのリニューアル作業に貢献した。放送分野では『スタジオパークからこんにちは』『アニメ　境界のRINNE２』『Rの法則』などの連動データ放送を，『あさイチ』では連動データ放送に加えハイブリッドキャストコンテンツも制作した。高精細分野では，年間60本の４K番組の制作支援を担当し，NHK４K制作番組の大半をカバーした。

映像ソフトの販売では，CDショップや通販各社，オンラインショップ「NHKスクエア」などを通じて，『大河ドラマ』「真田丸」，『連続テレビ小説』「とと姉ちゃん」「べっぴんさん」といった放送番組に加え，「武蔵坊弁慶完全版」，『大河ドラマ』「いのち」などアーカイブス資産を活用した再商品化，さらにNHK出版とNHKサービスセンターの協力により，CDと解説書，DVDをセットにした「生誕80周年記念　永久保存版　永遠の美空ひばり」などを発刊した。

また，16年度も被災地復興支援として，DVD「証言記録　東日本大震災」の売り上げの一部から，NHK厚生文化事業団を通じて約54万円，「花は咲く on ICE～荒川静香　羽生結弦～」の売り上げの一部から，JOCを通じて約113万円の震災復興地支援寄付を実施した。

２．NHKエデュケーショナル

Eテレを中心に年間およそ１万1,000本のNHK番組を制作している。同時に番組を展開した映像ソフトやイベント，展覧会の展示映像，通信教育教材など多彩なコンテンツを生み出し，さまざまなメディアを通じて提供している。

16年度は，Eテレでは新番組として『コレナンデ商会』『テストの花道　ニューベンゼミ』『ふるカフェ系 ハルさんの休日』を制作したほか，定時番組『SWITCHインタビュー　達人達(たち)』『100分de名著』『きょうの料理』『すてきにハンドメイド』『きょうの健康』『すイエんサー』『東北発☆未来塾』『Rの法則』『スーパープレゼンテーション』『2020TOKYO みんなの応援計画』『おかあさんといっしょ』『すくすく子育て』『NHK高校講座』『語学講座』など，特集番組として『こ

ども安全リアル・ストーリー』『日曜美術館40周年特集「ゆく美　くる美」』『まるごと見せます！世界の教育コンテンツ～日本賞2016～』などを制作した。

総合テレビでは『あさイチ』『サラメシ』『プロフェッショナル 仕事の流儀』『探検バクモン』などのほか，特集番組として『ブレイブ 勇敢なる者』『へんてこ生物アカデミー』などを制作した。

衛星放送では『アナザーストーリーズ　運命の分岐点』『コズミック　フロント☆NEXT』のほか，『美の壺』『おとうさんといっしょ』，特集番組として『世界プリンセス物語～愛される理由とは～』『スイーツマジック』などを制作した。

テレビ国際放送では，新番組『HAIKU MASTERS』をはじめ，『Japanology Plus』『Science View』『Face To Face』などを制作した。

また，スーパーハイビジョンによる映像コンテンツの制作にも取り組み，『ルーブル 永遠の美』『やまと尼寺　精進日記』などを制作した。

このほか，「東京国際キルトフェスティバル」や「国際バラとガーデニングショウ」「おかあさんといっしょスペシャルステージ」などのイベントの企画・運営，放送大学の授業番組の制作を行った。

３．NHKグローバルメディアサービス

NHKの報道・スポーツ・国際部門を支援する関連会社として，デジタルコンテンツ時代にふさわしい，多様なニュースと魅力ある番組を制作する一方，携帯電話やデジタルサイネージ向けのニュース提供事業を展開している。

16年度は，NHKからの委託で，BS1を中心とするニュース制作，番組制作，スポーツ中継，番組・ニュースの字幕制作，デジタル放送のデータ制作，映像取材と編集，通訳・翻訳，映像の海外送受信など，多角的な業務を引き続き展開した。

このうち，ニュース系では，『BSニュース』『ワールドニュース』『東京マーケット情報』『NHK手話ニュース』などを放送するとともに，海外向けのラジオ放送『日本語ニュース』の制作に当たった。

番組系では，総合テレビで新番組『グッと！スポーツ』，BSで『スポーツ　データ・コロシアム』を立ち上げたほか，リオデジャネイロ五輪・パラリンピック関連の特集番組を多数制作した。国際放送では，15年度に立ち上げた『NEWSROOM TOKYO』『SAMURAI WHEELS』『Japan Railway Journal』『Medical Frontiers』の４つの番組の充実を図ったほか，新たに『GRAND SUMO Highlights』をスタートさせた。

スポーツ番組では，８～９月の『リオデジャネイロ五輪・パラリンピック』や２月の『札幌冬季アジア大会』の放送に力を入れた。また，８Kソフトの充実にも取り組んでおり，リオ五輪や大相撲，センバツ高校野球などで８K制作を進めた。

字幕制作では，総合テレビで午前７時から深夜０時までのすべてのニュースに字幕を付けたほか，リオ五輪の競技中継や参議院議員選挙の政見放送や開票速報にも字幕を付与した。大阪局，名古屋局，福岡局，仙台局では，夕方の情報番組と『ニュース845』の字幕を引き続き請け負った。

デジタル分野では，関東甲信越各局のデジタルニュースの制作を順調に行ったほか，新たに，九州・四国の５局のデジタルニュースの制作も請け負った。

バイリンガルセンターでは，BSの国際情報番組で海外の放送局のニュース番組を通訳するとともに，『NHKニュース７』や『ニュースウオッチ９』で英語による副音声の放送を担当した。また，国際放送の制作や，英語のニュース原稿の出稿を請け負った。

国際回線のコーディネートでは，世界各地で頻発したテロ事件などの緊急報道や，EU離脱を巡るイギリスの国民投票，アメリカ大統領選挙，韓国大統領の弾劾，リオ五輪・パラリンピックなど，緊迫した世界情勢からスポーツ中継まで多彩な業務に当たり，激増するIP伝送にも的確に対応した。

アーカイブス事業では，地域局のニュースの編集済み映像を川口アーカイブスで受け入れる業務が始まった。

携帯電話向けのサイト「NHKニュース＆スポーツ」は，NHKニュースやスポーツ，気象情報などのコンテンツの充実に取り組み，会員数は有料ニュースサイトとしては国内最大級に成長した。災害時には，NHKの災害報道の一翼を担うサイトとして情報を無料提供している。また，デジタルサイネージでは，各地の大型画面をはじめ，企業のオフィスや公共交通機関などにニュースの提供を開始し，順調に提供先を増やした。航空機内サービスでは日本の魅力を紹介するコンテンツが好評で，提供するエアラインが増えている。

４．日本国際放送

３か年経営計画（15～17年度）の第２年度として「海外情報発信のハブ」となることを目指し，

テレビ国際放送の番組制作，受信環境整備・プロモーション，編成・送出，ニュース映像の制作，インターネット事業などNHKからの受託業務のほか，JIB独自の放送やアジアでのコンテンツ展開などの事業を通じて，日本から世界への情報発信の充実・強化に取り組んだ。

NHKからの受託業務では，16年度は，定時番組として継続８番組に加え，新たに，総合テレビの番組『サキどり↑』のVTR部分を再編集しスタジオゲストを変えて，英語によるディスカッションを収録し，日本のビジネストレンドを伝える『Biz Buzz Japan』および『Direct Talk』の２番組を制作したほか，さまざまな特集番組を制作した。

NHKワールドTVの受信環境整備・プロモーション業務では，北米，アジア等を重点地域として取り組み，NHKワールドTVを24時間配信している北米８都市で継続的にプロモーションを行った。NHKワールドTVの視聴可能世帯数は16年度末現在で２億9,986万世帯となった。また，２年がかりで取り組んだ次期発信回線への移行が12月に完了した。

編成・送出業務では，リオデジャネイロ五輪の競技映像が国際発信できないことから，NHKワールドプレミアムで放送する主要ニュースは期間中競技映像をカットして時差編成を行った。また，東日本大震災後の被災地の課題を紹介した『NEWSLINE FOCUS』の編集も担当するなど，映像編集態勢を強化して情報発信を行った。

インターネット事業では，NHKワールドTVアプリのダウンロード促進のため，Amazon Fire TVおよびFireタブレットを活用したオンライン広告を実施した。

一方，独自業務では，九州復興支援のためのシリーズ９本をjibtv枠で放送した。また，農水省に「和食を世界にアピールする提案」が採択され，10月にカンヌで開かれた番組見本市「MIPCOM・日本特集」でアニメ『英国一家、日本を食べる』の特別版を制作するとともに，会場で和食を提供して日本の魅力を印象づけた。

この他，アジアでのチャンネル事業展開に引き続き力を入れ，ミャンマーの地上波MNTVで『大河ドラマ』「八重の桜」を，ベトナムでは教育専門チャンネル（VTV7）で『いないいないばあっ！』のローカライズ版を制作段階から関わり放送した。また，ミャンマーでのイベント「プエドー」は16年で３回目の開催となり，１万7,000人を集客して盛況のうちに終了した。

５．NHKプラネット

地域に拠点を置き，NHKの地域放送への貢献や地域情報の全国発信，NHKワールドを通じた国際発信を行っている。また，地域に根ざした展覧会・博覧会，イベントの企画・運営を行っている。

16年度，東京本社では『うまいッ！』『食材探検 おかわり！にっぽん』『釣りびと万歳』のほか，『あさイチ』のコーナー「ピカピカ☆日本」や『ひるブラ』といった生中継番組，震災復興支援番組『きらり！えん旅』の制作を行った。また，東日本大震災の被災地を支援する「NHK公開復興サポート　明日へ」の東京事務局を担った。

近畿総支社・四国支社では，『バラエティー生活笑百科』や『歴史秘話ヒストリア』，Eテレ関西発の『きょうの料理』『趣味どきっ！』『俳句王国がゆく』（四国支社），また，外国人に日本各地の魅力を紹介する『J－Trip Plan』を制作した。事業では，大阪市の文楽支援事業「ムムム！！文楽シリーズ」や東京オリンピック・パラリンピックに向けた国際的な機運を高める「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」において，文化庁が主催する文化会議の企画・運営を行った。また，NHK大阪ホールの管理運営業務も行ってきた。

中部支社では，『東海北陸フレッシュ便 さらさらサラダ』『Uta-Tube』『日曜Tube』『超絶　凄（すご）ワザ！』などの番組制作事業，「東儀秀樹×古澤巌×coba全国ツアー」「あいちトリエンナーレ2016」「国民文化祭・あいち2016」などのイベント事業，「日本遺産紹介映像」「地域映像アーカイブス事業」などを実施した。

中国支社では『プロフェッショナル　仕事の流儀』「ぶれない信念が，勝利をつかむ～プロサッカー監督・森保一～」や『英雄たちの選択』「武士よさらば 大村益次郎 常識を破壊する組織革命」のほか，地域情報番組『ひるまえ直送便』などを制作，また，８月には会館公開イベント「フレフレ！リオオリンピック応援ひろば」を実施した。

九州支社では地域放送の『はっけんTV』『おはサタ！』の定時番組のほかに熊本地震関連の特集番組『ガレッジ a GO！ GO！ 秋の九州　絶景ドライブ』や『ETV特集』「水俣病　魂の声を聞く～公式確認から60年～」，『アサタビ！』『世界遺産への道』などの番組を制作した。イベントでは，宮崎県に伝わる神楽の東京公演を実施した。また，３年にわたる長期取材を行い「有田焼創業400年記念」VPを制作した。

東北支社では，東日本大震災の復興関連で『あさイチ』シリーズ企画を制作しBSプレミアム特番，震災テレソンに展開したほか，『クローズアップ東北』『ETV特集』『ハートネットTV』等を制作。また，東北の観光需要を喚起する『おいで、東北　君に見せたい東北がある』『大好き東北ミニ～TOHOKUぐるり。』シリーズや，地域情報番組『ひるはぴ』などを制作した。また，「NHK公開復興サポート　明日へ」を郡山市と陸前高田市の２か所で実施した。

北海道支社では『さわやか自然百景』『ワイルドライフ』などの自然番組，『NHKニュース　おはよう北海道』『つながる@きたカフェ』などの地域情報番組，日曜午後の『北海道LOVEテレビ』では「いくぞ～！北の出会い旅」や「うまいッ王国　十勝スペシャル」「いま大注目！北の縄文スペシャル」などを制作した。

６．NHKプロモーション

放送関連イベントの企画・運営をはじめ，展覧会，コンサート，フォーラム・シンポジウム，各種式典，講演会などのイベント事業を実施した。

16年度は，展覧会では「カラヴァッジョ展」「生誕300年記念 若冲展」「2016年NHK大河ドラマ特別展 真田丸」「特別展 古代ギリシャ」「メアリー・カサット展」「特別展 春日大社 千年の至宝」「宇宙と芸術展」「没後100年 宮川香山」「北大路魯山人の美 和食の天才」「スター・ウォーズ展」などを実施した。

番組関連イベントでは，「NHK音楽祭2016」「NHKニューイヤーオペラコンサート」「NHKバレエの饗宴（きょうえん）」「NHK古典芸能鑑賞会」「おかあさんといっしょファミリーコンサート」「Nスポ！2016」「NHKサイエンススタジアム」「This is NIPPON プレミアムシアター スペシャルライブ 初音ミク×鼓童」などを行った。

このほか，「第17回地域伝統芸能まつり」「日中韓芸術祭2016」「ワンワンまつり みんなでワッショイ！」「古澤巌×ベルリン・フィルハーモニーヴィルトゥオーソ'」「第７回ファーマーズ＆キッズフェスタ」「ふるさとの食 にっぽんの食 全国フェスティバル」「信州上田真田丸大河ドラマ館（運営業務）」などを実施した。

７．NHKアート

NHKテレビ番組の美術制作（美術制作進行，大道具等美術用品の製作・運用，装置，装飾，衣裳，メーク，かつらなど）やセットデザイン，グラフィックス・CG・VFX等のデザイン制作を行う総合美術会社で，一級建築士事務所，特定建設業の資格を有し，文化施設・イベント等の企画，制作，設計・施工，運営までの業務を行うほか，NHKホールをはじめ12のホール・会館の舞台・照明・音響機器等の操作・運営管理を行うなど，番組美術制作で培ったノウハウを生かした多様な業務を行っている。

16年度は『大河ドラマ』「真田丸」や『連続テレビ小説』「とと姉ちゃん」，『放送90年大河ファンタジー　精霊の守り人』『第67回NHK紅白歌合戦』『NHKスペシャル』などNHK番組の美術業務やNHK関連イベント「おかあさんといっしょファミリーコンサート」「高専ロボコン2016」「Nスポ！2016」「NHK文化祭2016たいけん広場」などの会場設計・施工，展示制作を担当した。また，ドーム球場で実施の「第18回国際バラとガーデニングショウ」「第16回東京国際キルトフェスティバル」「テーブルウェア・フェスティバル2017」「世界らん展日本大賞2017」などのほか，地域活性化イベントの「日本の祭りinながはま2016」「2016“よい仕事おこし”フェア」の会場設計・設営等を行った。さらに10月１日に開館した「佐賀バルーンミュージアム」のデザイン，設計・監理，施工等を行ったほか，トルコで開催された「アンタルヤ国際園芸博覧会」の日本政府出展ブースのデザイン・設計・施工・現地事務局業務に携わった。

16年度は，４月に発生した熊本地震の緊急報道や特集番組の制作，リオオリンピック・パラリンピック現地スタジオの製作やオペレーション業務などNHK報道を支える業務に取り組んだほか，４K撮影によるドラマ『正月時代劇』「陽炎の辻 完結編」や『土曜ドラマ』「スニッファー嗅覚捜査官」など４Kに対応したセットやCG／VFX業務を行った。当社が画面制作したNHKVRニュースがグッドデザイン賞を受賞したほか，CG／VFX業務に取り組んだ『NHKスペシャル』「MIRACLEBODY（ミラクルボディー）」が第47回科学放送高柳賞の最優秀賞を受賞した。

８．NHKメディアテクノロジー

番組の制作・運行・送出からデータ放送まで，NHKの放送技術業務を幅広く担うとともに，４K・８K高精細映像や3D技術に取り組んでいる。また，放送・営業・事務などNHKの基幹システムの開発・運用業務を担い，高い情報システム技術力で放送事業を支えている。さらに，放送と情報システムの両技術を併せ持つ企業としてNHK

の「公共メディアへの進化」の一翼を担っている。

16年度は地域放送局のさらなる委託拡大に的確に対応するため地域型社員制度の定着と人材育成の強化を図るなど，長期的視点での業務支援を拡充させた。

番組では，『連続テレビ小説』「べっぴんさん」，『正月時代劇』「陽炎の辻　完結編」をはじめ多彩な番組の制作業務を担った。

スポーツイベント中継では，「リオデジャネイロオリンピックサッカー」「札幌冬季アジア大会スピードスケート」「ワールドベースボールクラシック１次・２次ラウンド」の国際信号制作を担当するなど，実績を重ねるとともに，20年東京オリンピックに向けた人材育成，スキル拡大を加速した。

高精細映像・3D技術の分野では，４K･８K制作の本格化を見据え16年２月に整備した高精細試写室「THEATER U」を活用し，さまざまなコンテンツを制作した。また，NEPと共同で８K3D＋22.2chマルチチャンネル音響システム＋レーザー照明演出による新たな高精細コンテンツ「８K：VRシアター」を開発し，９月にアメリカの「SXSW」，10月にはお台場での「デジタルコンテンツEXPO」で公開した。さらに，８Kによるアニメ制作の検証を目的に，被災地の震災前の日常を描いた「あの日まで」を制作。８Kの新たな可能性を開くとともに復興支援活動の一環として上映を行った。

情報システム部門では，４K･８K番組提案機能の充実，インターネット同時配信・見逃し番組配信実験へのシステム対応，さらにマイナンバー情報の安全確保など基幹システム全般のセキュリティ強化に向けた設備整備およびNHKグループ全体のセキュリティー強化を推進した。また，放送システム開発部門では６月にISO 9001認証を取得し品質向上の強化を図った。

放送と通信の連携分野では，６月からサービスが開始されたスマホ向け「NHKニュース・防災アプリ」の技術コンサルタント，配信基盤の開発，監視業務などを担当した。また，７月の参議院議員選挙，東京都知事選挙では，選挙システムの開発と運用，報道局SoLTルームからの中継，インターネット開票速報画面のスマホ向け画面の開発を担当した。

８月のSHV試験放送開始に向けNHK基幹設備整備を支援するとともに，放送開始後の送出業務を担った。

９．NHK出版

NHK出版は，NHKの放送番組テキストおよびNHKの放送に関連した書籍・雑誌，放送関連以外の書籍・雑誌等の出版・販売（電子版も含む）のほか，音楽著作権の管理等を主業務としている。

16年度放送テキストは『きょうの料理』『趣味の園芸』などの家庭向けテキスト，『基礎英語１』や『テレビで中国語』などの語学系テキスト，『趣味どきっ！』や『100分de名著』などの趣味・教養系テキスト，計57タイトルを発行した。また，すべてのテキストについてテキスト電子版を発行した。新規テキストとしては，16年度後期より『旅するドイツ語』『旅するフランス語』『旅するスペイン語』『旅するイタリア語』のテレビテキスト４誌を創刊した。

放送関連では，『大河ドラマ』関連として『NHK大河ドラマ・ストーリー　真田丸』の後編・完結編を発売。17年の「おんな城主　直虎」については，『NHK大河ドラマ・ストーリー　おんな城主　直虎』前編およびノベライズの１・２巻を発売，大河ドラマ・ストーリーについては，電子版も刊行した。また，『連続テレビ小説』については，「とと姉ちゃん」のドラマ・ガイドPart２，「べっぴんさん」のノベライズ上・下巻およびドラマ・ガイドPart１・２などを発売した。その他，NHK出版新書『トランプ政権と日本』『キラーストレス』や『ゲノム編集の衝撃』『新・映像の世紀　大全』などの番組関連書，『NHK日本語発音アクセント新辞典』『NHKデータブック世界の放送2017』などを刊行した。

放送関連以外では，NHK出版新書で『はじめてのサイエンス』『大国の掟（おきて）』などを，翻訳書で『〈インターネット〉の次に来るもの』などを発売した。実用書では，『別冊NHKきょうの料理　小さなフライパン１つで！シニアの１人分ごはん』『別冊NHKきょうの健康“筋力アップ”で健康　今からでもできる！「動けるカラダ」づくり』などを刊行した。

また，３月に『NHK語学テキスト 音声ダウンロードチケット』の発売を開始した。

10．NHKビジネスクリエイト

NHKビジネスクリエイトは，NHKグループの放送支援，インフラ支援業務および事務支援業務を一元的に実施する総合サポート会社として，各分野の専門性を生かした事業活動を展開している。

16年度は，平成27～29年度経営計画「揺るがぬ信頼　たゆまぬ挑戦　公共放送の総合支援企業へ」の２年目として多様な事業展開と事業改革に取り組んだ。

放送支援分野においては，台本・一般印刷事業で，ペーパーレス化の影響により一般印刷の売り上げが15年度を下回ったが，DFS（ドキュメント・ファイリング・サービス）事業が売上目標を大幅に上回った。番組編成事業では，ネット同時配信やスーパーハイビジョン（４K･８K）などの新サービスに積極的に参画した。

インフラ支援分野においては，テナント事業で，当社が保有する共同ビルの改補修を進めオフィスの快適性を向上させたことに加え，第三共同ビルの敷地（一部）について借地契約の更新・改定を行った。技術事業では，３年次にわたる工事となる燃料地下タンク更新工事の設計を受注したほか，放送センター建て替えに向けてインフラ設備の調査業務を受注した。

事務支援分野では，NHKグループを対象とするシェアードサービスについて安定的な運用を図るとともに，さらなるサービス改善に向け取り組んだほか，地域支社においては，考査モニター関連業務等の受託地域拡大や編成プログラム関連業務を初めて大阪で受託するなど地域拠点局への支援を充実させた。

11．NHKアイテック

放送・通信・情報分野での総合技術会社として，送信・受信・映像・情報・建築関連技術をベースに，コンサルティングから設計・施工・保守まで一体とした事業を展開した。

全国の基幹局・中継局，共同受信施設の保守業務を受託し，NHK送受信設備の保守業務を全面的に担当している。定期保守の着実な実施のほか，16年４月の熊本地震では中継局復旧，予備送信所設置対応，また，東北地方を直撃した台風10号による放送所停電バックアップ対応など，さまざまな自然災害への緊急出向をし，公共放送の「放送電波確保」に貢献した。

そのほか，一般業務としてラジオの強靱（きょうじん）化に向けた民放のFM補完局整備をはじめ，防災行政無線システムの整備，700MHz帯携帯基地局整備に伴う放送電波の障害対策，ラジオギャップフィラーによる難聴解消対策，ケーブルテレビ，民放等における送信設備，送出設備，伝送設備，同録装置などの整備を精力的に進めた。

また，ケーブルテレビ局による槍ヶ岳４K無線中継に技術協力するなど，４K･８Kの実用化に向けて尽力した。

新たな経営体制の下，強い決意で経営改革を進めた。事業目的やミッションを再定義し，それを踏まえ経営理念などを制定し，内部統制の高度化，企業風土の刷新，業務分野の見直しなどに取り組み，中期経営計画を策定した。

12．NHK文化センター

NHK文化センターは全国47教室（17年３月末現在）で教養・趣味・暮らし・芸術・健康など年間６万4,000に及ぶ多彩な講座を展開している。会員数は全国で21万2,000人である。

16年度は，NHKグループならではの特色を生かして，『ドキュメント72時間』『グレートトラバース』『グッと！スポーツ』などの制作者の講座を実施し好評を得た。また，『ニュースチェック11』キャスターやEテレ『ニャンちゅうワールド放送局』の「おねんどお姉さん」出演者などの講座が人気を集めた。

放送番組についての無料講演会を一般視聴者を対象に開催する「NHK公開セミナー」を受託業務として実施した。16年度は全国18会場で『大河ドラマ』「真田丸」「おんな城主　直虎」，『放送90年大河ファンタジー　精霊の守り人』『にっぽん百名山』『コズミック　フロント☆NEXT』をテーマに開催し，１万人以上の来場者があった。

さらに，日本の文化を海外で披露し交流を図る「国際交流祭」30回目を迎えた16年は，日本ベルギー友好150周年認定イベントとして，ベルギーのアントワープで11月12～13日の２日間開催した。太鼓，よさこい，阿波踊りなどにぎやかな舞台と12団体による展示が行われ，総参加者はおよそ100人，来場者は1,600人に上った。

13．NHK営業サービス

13年秋に10年後を見据えた「NBS経営ビジョン」を取りまとめた。それを具体化して，３か年の中期経営計画「NBS経営プラン27-29」を策定しており，中間年度にあたる16年度は，受信料収入の確保と効率的なNHK営業活動の展開に寄与するとともに，公共放送および放送メディア全体の発展や革新を支援する活動を遂行した。

受託業務については，視聴者からNHKに届け出のあった放送受信契約書等の情報処理，全国４か所のコールセンターにおける電話を中心とした視聴者対応，事業所・集合住宅の受信契約取次および受信料収納や民事事前対策等未収対策への支

援，法人委託事業者の訪問活動要員等に対する講習会や映像による教育支援，営業活動の支援資材であるパンフレット等の企画・編集・制作等の各種業務を実施した。また，NHK営業拠点の集約（16年７月長野県，愛知県，福島県）およびこれに伴うNBS事業拠点の集約にもシステム面のサポートを含め対応した。

自主事業については，NHK関連団体のコールセンター業務，14年度に一般社団法人700MHz利用推進協会から受注した「700MHz帯を利用する特定基地局によるテレビ受信障害対策コールセンター構築・運営業務」を継続実施してきたが，ようやく下半期から本格的な稼働が始まり，今後拡大の見込みである。

企業統治やリスク管理についても適切に対応した。特に各事業部門のそれぞれが大量の個人情報を取り扱っており，個人情報保護は業務の生命線である。このため，業務プロセス・体制を不断に見直すとともに，定期的に研修等を実施している。

なお，個人情報取扱事業者として，プライバシーマークを取得しており，16年５月に９期目の更新を行った。

Ⅱ．関連会社

１．放送衛星システム

株式会社放送衛星システム（略称B-SAT）は，BS放送における基幹放送局提供事業者として放送衛星を調達・所有し，その管制，運用のほかアップリンク業務，全局EPG（電子番組表）のデータ集配信業務を行い，BS放送の基本的なインフラ提供の役割を担っている。

16年度は，放送衛星３機（BSAT-3a・3b・3c）により，日本に割り当てられているBS放送用の全周波数（12中継器）を使って，31番組のBSデジタル放送を視聴者に届けたほか，BS17chでは，16年８月からNHK，同12月からA-PABによる４K･８Kの試験放送を開始した。

「B-SAT 中期事業計画」（15～17年度）の具体化として，非常災害時等にも放送衛星を安定的に運用できるよう備えるとともに，広範囲に及ぶ集中豪雨への対策としてアップリンク主局・副局・緊急局の効果的な運用を図るなど，BS放送の継続確保に取り組んだ。

16年９月，BSAT-3bで放送中の一部チャンネルが一時，中断する放送事故が発生した。該当のチャンネルをBSAT-3cに移すことにより，放送を復旧させた。

４K･８K実用放送に係る基幹放送局の予備免許が16年９月に交付された。次期放送衛星（BSAT-4a）は，17年後半の打ち上げ・引き取りを目指して，製作を順調に進めた。

２．NHK Cosmomedia America, Inc.

NHK Cosmomedia Americaはアメリカにおける番組制作と国際映像展開の拠点である。このうち番組制作の大きな柱は，NHK番組の取材制作とリサーチ，通訳，機材の手配などのコーディネート業務である。MLB（メジャーリーグ野球）などのスポーツ中継業務も請け負っている。国際映像展開では，「TVジャパン」のチャンネル名でアメリカ・カナダ在住の日本人・日系人向けに，NHK番組を中心とする日本語での24時間の有料配信事業を行っている。契約数は17年３月の時点でおよそ７万5,000，他におよそ400のホテルでも視聴可能である。なお，１日平均５時間はノンスクランブルでの配信となっている。

３．NHK Cosmomedia (Europe) Limited

NHK Cosmomedia（Europe）はロンドン本社とパリ事務所を拠点に欧州における番組制作と日本語衛星放送を行っている。番組制作部門は，NHKの制作力・技術力を生かした番組制作や大型生中継の実施と，リサーチ，機材手配などのコーディネート業務を行っている。また「JSTV」のチャンネル名で，NHKや民放番組など日本語の24時間有料放送を実施している。衛星とCATVを通じて欧州，ロシア，CIS（独立国家共同体）各国，中東，北アフリカなど60を超える国で放送，契約数は17年３月でおよそ6,500，各国の500のホテルでも視聴できる。ニュースを中心に１日平均５時間はノンスクランブルで放送している。

４．ビーエス・コンディショナル　アクセスシステムズ

略称は「B-CAS（ビーキャス）」。NHKBSデジタル放送の受信確認メッセージや有料放送の視聴，それにデジタル放送番組の著作権保護などに利用されているICカード（B-CASカード）の発行・管理を行っている。

16年度は，B-CASカードの不正改ざんへの対応を進めるとともにカードの流通・在庫の適正化を進めた。16年度のカード発行枚数は1,136万枚，累計発行枚数は２億4,800万枚となった。

また，社会的インフラを担う企業として，引き続きコスト削減に努め，利用者負担の軽減を図った。

Ⅲ．関連公益法人等

１．NHKサービスセンター

公共放送の広報・視聴者サービスを担う一般財団法人として，NHKと一体となって視聴者との結び付きを強めるさまざまな業務を行った。

広報番組や番組ポスター，ホームページ等でのNHK放送番組の広報プロモーション業務では，『大河ドラマ』や『連続テレビ小説』でTwitterやLINE等のSNSを活用し，多面的なPRを行った。地域発ドラマでは，広報印刷物を作成し，地域放送局の広報活動や営業活動を支援した。

NHK広報イベント・展示業務では，NHKホール等での番組公開や子ども向けイベントを各地で開催。『リオデジャネイロオリンピック』『第67回NHK紅白歌合戦』などの８Kスーパーハイビジョンの普及・PRイベントのパブリックビューイングを幅広い層に向け実施した。また，『大河ドラマ』『連続テレビ小説』の番組パネルや小道具を全国各地で展示し，番組広報に努めた。

NHK番組情報誌ウイークリー『ステラ』は50号発行したほか，臨時増刊号『リオ オリンピック放送をぜんぶみる！』，ステラMOOK『とと姉ちゃん メモリアルブック』『べっぴんさん メモリアルブック』『ラジオ深夜便 ファンブック2017』を発行した。月刊誌『ラジオ深夜便』は創刊20年を迎え，誌面を刷新した。

NHK語学CD等のコンテンツ制作・発行・配信業務では，利用者の学習効果の向上を図るため，NHK語学講座番組の音声テキストCDを番組と連動した内容で毎月発行したほか，NHKのアーカイブス音源を活用したNHKCD「NHK 新・落語名人寄席 十二か月」「甦る！NHKラジオ歌謡」等を発行した。

「NHKスタジオパーク」「NHKホール」「NHKみんなの広場ふれあいホール」「NHK放送博物館」では来館者を対象としたイベントや多彩な視聴者サービスを実施した。「NHK放送博物館」では，８Kの試験放送の番組と連動したトークショーや講談，演奏会等を実施した。

「NHKふれあいセンター」では，電話，メール，FAX等により視聴者からの要望・問い合わせが101万8,000件寄せられ，迅速・的確に対応した。

社会奉仕業務として月刊誌『ラジオ深夜便』の全国の老人福祉施設への寄贈や，（社福）日本点字図書館の点字週刊誌『NHKウイークリーガイド』の編集・発行への助成のほか，「NHK杯全国中学校放送コンテスト」をNHKなどと共に主催した。

広報・視聴者サービスに関する情報共有，支局を含む各部機能の調整，総合運用を図るとともに，新しい広報手法の開発を進めるため，16年７月に広報展開推進室を設置した。

２．NHKインターナショナル

外務省や国際交流基金など，公的資金による発展途上国の放送機関への番組提供や支援業務を行っている。また，公共放送としてのノウハウと映像コンテンツを生かして，国際交流や海外放送機関への取材協力業務を行い，相互理解の推進を図っている。

16年度は，JICAの委託を受けて２年半にわたる「ウクライナ公共放送組織体制強化プロジェクト」を開始した。コソボ国営放送のプロジェクトは２年目を迎えており，共に「放送機材の運用」「番組制作力強化」を重点に支援を行っている。15年から始まった「バングラデシュ教育テレビ設立支援プロジェクト」は，首都ダッカの治安が安定しないことから，第三国や日本での研修を実施した。一方，「南スーダンTV・ラジオ（SSTVR）組織能力強化プロジェクト」については，18年３月まで延長が決まったが，現地の治安悪化もあり，プロジェクト活動は中断となっている。この他，VTV（ベトナム国営テレビ）に対しては，農業番組制作能力向上のための研修に加え，新たに天気予報・災害報道の研修も行った。

海外放送機関への番組の提供については，外務省の文化無償協力と国際交流基金の事業を合わせて42か国58機関に１万540本の番組を提供した。日本のメディア芸術を紹介する事業としては，文化庁メディア芸術祭の受賞作品等を海外のフェスティバル等で紹介する事業を文化庁から受託し，16年度は，現地の関連団体と共催する「企画展」や上映・展示等を世界14か所で実施した。

中国関連事業では，中国国内の防災への関心の高まりを受け設立された「中国緊急報道センター」のホームページに掲載する動画「防災ミニ知識」を16年度も40本（各３分）を制作した。また，CCTV・中国中央電視台など中国のテレビ局の日本取材もサポートした。

世界の中での日本理解を促進するため，16年度

は海外に提供するNHK番組の国際版（フランス語，アラビア語），独自企画番組，計65本を制作した。

北海道洞爺湖サミット以来８年ぶりに日本が議長国となった広島でのG7外相会合，伊勢志摩での首脳会合が16年４月から５月にかけて開催され，IBC（国際放送センター）の設営および運営業務を実施した。公式行事の撮影に加え，ブッキングオフィス，記者リポートポイント，共用編集室，光伝送回線などを準備し，国内外放送機関等への取材協力を行った。サミットを含め16年度は100件，21か国・29の放送機関等に取材協力を行った。

国際コンクール参加番組は47本，海外交流用英語版は16本を制作した。テレビ国際放送のNHKワールド用にも，定時番組『美の壺』『サラメシ』など121本の英語版を制作した。また，『連続テレビ小説』「花子とアン」と「あさが来た」（共に全156話）の英語版，スペイン語版等を制作した。

海外の視聴者からNHKに寄せられる意見や要望，海外の委嘱モニターから送られてくるモニター報告を整理してNHKに報告し，番組制作・番組編成に役立てた。

海外からNHKへの訪問者の接遇件数は90件で，62の国と地域および国際機関から要人を含めて673人がNHKを訪問した。

教育コンテンツの国際イベントである「第43回日本賞」の運営等を実施した。今回は316本の応募があった。

３．NHKエンジニアリングシステム

NHKの技術開発成果を広く提供する技術協力・周知あっせん，８Kスーパーハイビジョン等の新技術の実用化開発，放送の受信環境維持改善に関わる調査業務などを実施した。

16年度，８Kの普及促進では「NAB2016」等での展示のほか，「リオ五輪2016」等のパブリックビューイングの技術運用を実施した。また，佐賀市バルーンミュージアムへの８Kプロジェクターの提供，８K試験放送チューナーと上映装置とのインターフェース装置開発ならびに放送博物館等への導入，４K･８Kテストセンター事務局支援業務などを実施した。さらに８K医療応用研究開発（遠隔医療に関する国の調達と内視鏡手術システムに関する国の委託研究）を実施し，８Kの放送外展開を推進した。

放送の受信環境調査では，テレビジョン放送，中波ラジオ放送，FM放送の技術調査に自動測定システムを開発・導入し，高精度で迅速な調査の実現による業務の質的向上を図った。

また，Eテレの中国語講座番組で抑揚変換技術等の利用を通してインターネットサービス充実に貢献したほか，放送・通信連携システムに関する調査研究，映像・音声設備の整備・保守，超高層ビル等によるテレビ受信障害予測，技術セミナーや４K･８K標準画像の頒布などによる新技術の普及・技術者育成を実施した。

４．NHK放送研修センター

NHKの職員研修を事業の基本に据え，民間放送局，ケーブルテレビ局，海外の放送局，制作プロダクション等多様な放送界の人材育成を行っている。また，ことばコミュニケーション技術などの一般への普及事業や「人にやさしい放送」を目指すNHKの字幕放送や解説放送の充実にも協力している。

NHK職員に対する研修では，「公共放送を支えるプロフェッショナルの育成とマネジメント能力の強化」「新たな経営課題に即した専門知識・専門能力の伸長」などを目指し，新採用者研修，基礎（新人層）研修，専門研修，中堅層・リーダー層研修，指導・管理者研修など113研修170回を実施し，受講者数は5,590人となった。

また，公共放送人として必要不可欠なコンプライアンス意識の徹底を図るため，eラーニングで，「事例に学ぶ，『NHK倫理・行動憲章』『行動指針』」など14研修を実施し，延べ１万8,700人が受講した。公金意識研修は，新採用者，中堅層，指導・管理者層を対象に実施し，全国で835人が参加した。

NHK関連団体に対する研修については，NHKグループ全体の総合力やコンプライアンス意識の向上などを目指し，新採用者から経営幹部まで階層別研修を中心に実施した。

民間放送局，ケーブルテレビ局，海外放送局，制作プロダクションに対しては，番組制作のノウハウ，放送技術の基礎や最新技術の習得を図る研修を実施した。

このうち民放連関連では，放送倫理をテーマとした「放送人基礎研修」や若手技術者を対象とした「テレビ技術研修会」を実施した。また，ケーブルテレビ局向けには「番組制作コース」と「伝送技術コース」「営業・管理コース」を設け，新入社員や初心者を対象とした専門研修を実施した。海外の放送局に対しては，国際協力機構（JICA）からの委託による放送技術や番組制作

の研修を実施した。

また，インターンシップは，NHKを志望する学生を対象に，番組制作，報道記者，映像ジャーナリスト，放送事業マネジメント，放送技術の５つのコースで実施した。

ことばコミュニケーション事業では，「日本語センタースクール」「NHK話しことば通信添削講座」「朗読事業」「先生のためのことばセミナー」「ビジネスパーソンを対象にしたセミナー」「放送支援のためのセミナー」を実施した。教育現場を対象としたことばコミュニケーション事業では，大学・専門学校・小中高校で13の講座を実施した。一方，ことばコミュニケーションのノウハウを社会に還元する企業･団体研修は，66の企業･団体からの要請に応えた。

そのほか，放送番組のアナウンス等業務では，ラジオ第２『ことば力アップ』のテキストを執筆し番組にも出演したほか，放送のバリアフリー化を目指すNHKの生放送に対応する字幕放送や解説放送に協力した。

５．日本放送協会学園（NHK学園）

NHKの教育番組を利用して通信による高等学校教育を行っているほか，生涯学習通信教育や社会福祉士等の国家試験受験資格を取得するための通信教育を行い，放送の利用促進に寄与するとともに，NHKの教育番組の充実・改善に協力している。

〔通信制高等学校〕

NHKの放送を利用して学ぶ広域通信制高校。東京本校のほか全国33の協力校等でスクーリングを実施。本校では，15年度より，週３日間の登校で放送視聴のポイントを指導し，自学自習の実践力を育成するコースを開設。16年度より東京本校に「総合教育相談･学習支援センター」を開設し，生徒，保護者等の学習支援や教育相談体制を強化した。また，不登校生を主な対象とする「ネット学習Do itコース」を東京本校，北海道（札幌），東北（仙台・盛岡），大阪に続き九州（福岡）にも拡大した。生徒総数3,226人，卒業生1,154人。卒業生総数は７万4,049人。

〔通信制福祉教育〕

社会福祉士養成課程は，16年度より，一般養成科を１年６か月と１年の２コース，短期養成科を９か月コースとして，２課程３コースを設置。学生総数476人，修了生252人，修了生総数3,453人。社会福祉士国家試験合格率は，全国平均25.8％に対し一般養成科56.5％，短期養成科57.1％。

専攻科は，16年度より，すべてのコース・専攻の学生募集を停止。16年度は16人が修了，修了生総数は３万5,277人。介護福祉士国家試験の合格率は全国平均72.1％に対し93.1％。

〔生涯学習〕

通信講座では，俳句・短歌・川柳・書道・写真・絵手紙・古文書など90講座で３万7,357人，オープンスクールでは，3,775講座で３万5,329人が受講した。NHK共催の全国短歌俳句大会には，短歌が４万7,232首，俳句が９万7,945句の応募があった。

６．NHK交響楽団

オーケストラ演奏により，音楽芸術の向上発展を図り，その社会的文化的使命を達することを目的とした公益財団法人であり，日本を代表する交響楽団として質量ともに最高水準の演奏を内外の音楽ファンに提供している。

15年度にパーヴォ・ヤルヴィが首席指揮者に就任したのを機に，N響は音楽面でも大きくブレークスルーを果たす一方，16年度はその高い演奏能力で世界に羽ばたき，世界の一流オーケストラとしての称賛を受ける年となった。N響創立90周年に当たる16年度は，パーヴォによるマーラー「一千人の交響曲」（９月）や名誉音楽監督シャルル・デュトワ指揮のビゼー歌劇「カルメン」（12月），さらに年末には桂冠名誉指揮者ヘルベルト・ブロムシュテットによるベートーヴェン「第九」といった大型の企画が相次ぎ，改めてN響の存在感を示すことができた。

さらに，17年２月から３月にかけて実施したヨーロッパ公演は，世界の一流オーケストラがひしめく地で，N響の演奏力の高さを知らしめることができた。海外一流オーケストラと同等の評価を得られ，N響が世界に向けて飛躍するステップとなった。

海外演奏活動はヨーロッパ以外にも拡大。16年６月には台北で，11月にはソウルでも公演。また，ベトナム国立交響楽団との交流も進めており，音楽の分野でも成長が著しいアジアを意識した演奏活動や交流活動にも取り組んでいる。

７．NHK厚生文化事業団

多様化する福祉へのニーズにきめ細かく応えるため放送と連携しながら障害者福祉，高齢者福祉などの事業を行っている。また，福祉団体を支援するためのチャリティーイベントを実施している。

〔障害者福祉事業〕
○パラリンピック選手が小学生と障害者スポーツを一緒に楽しみ交流する出前授業「パラリンピアンがやってきた」を，首都圏のほか，愛知県名古屋市，熊本市などで計８回実施した。また，リオパラリンピックのメダリストと2020年東京大会の課題を話し合うイベントを放送と連動して実施した。
○親子の個別相談に応じる「こどもの発達相談会」を13回実施したほか，障害がある子どもたちを対象とした療育キャンプを各地で行った。
○発達障害やがんなどに関する最新情報と，支援の在り方を伝えるフォーラムを13回行った。
○福祉現場の最前線に立つ人や障害当事者たちが，少人数の参加者と気軽な雰囲気の中で福祉課題を話し合う講演会「ハートカフェ@渋谷」を８回実施した。
〔高齢者福祉事業〕
○高齢者の健康と生きがいをテーマにした『ハートネットTV　公開すこやか長寿』の収録とゲストの講演会を行うイベントを各地で８回行った。
○関心の高い「認知症」に関するフォーラムを全国５か所で実施，併せてテレビ番組でも伝えた。
〔東日本大震災被災地支援事業〕
○16年度も引き続き地域福祉を支援する「わかば基金」の「東日本大震災復興支援部門」を通じて，被災地で尽力する９つの福祉グループに，スポーツ用具や介護機器など，活動に必要なものを支援した。また，被災地の福祉施設が作った製品の販売会を東京のNHKで実施した。
〔事業団が長年作品を募集し記録する事業〕
○高齢社会の生き方を描く小説「NHK銀の雫文芸賞2016」や，障害者の体験や福祉の実践を記録する「第51回NHK障害福祉賞」には，多くの応募があった。その入選作品を出版するとともに，テレビやラジオで放送した。
〔福祉情報提供事業〕
○NHKの福祉番組や事業団制作の福祉DVD教材を貸し出す「福祉ビデオライブラリー」は，発達障害や認知症などの利用が多く，貸出数が大きく増加した。
〔チャリティーイベント・福祉団体支援〕
○「第50回NHK福祉大相撲」を行い，福祉施設に福祉車両を，春と秋の「歌謡チャリティーコンサート」で障害者や高齢者の施設・団体に介護浴槽や，障害者スポーツ用具を贈呈した。
○地域福祉を支援する第28回「わかば基金」で，全国で45の福祉グループに活動を広げるための支援金や，NHKや関連団体の不用パソコンのソフトを新しくした「リサイクルパソコン」を贈った。

８．日本放送協会健康保険組合

健康保険法に基づき，被保険者と被扶養者に対して，保険給付および保健事業等を行っている。

16年度は，保健事業として各種検診や予防接種の経費補助，メンタルヘルスへの対応など，疾病予防や健康の保持・増進に資する施策を実施した。

また，特定健康診査・特定保健指導においては，事業主との協働により対象年齢を拡大するとともに受診率向上や特定保健指導の利用促進に努め，メタボリックシンドロームの予防および改善に取り組んだ。

９．日本放送協会共済会

NHK役職員とその家族などの生活向上と，退職者とその遺家族の救済，援護等を行うために，食堂の運営，物品販売，生涯生活設計相談，各種給付・貸付，各種保険の団体扱いおよび転勤者用住宅の管理・運営等の福利増進施策を行った。